

# 『命を繋ぐ大切な役割』

寝屋川消防署 警備課南出張所 救急担当 消防士 ながえ しょうたろう 永江 昭太郎(29)

## 《業務内容》

私が所属する救急担当は様々な現場に出動しますが、1日の始まりは資器材の点検からスタートします。どの担当でも行われていることですが、私たち救急担当も救急現場で迅速に活動が行えるよう、日々の細かな点検を怠りません。

災害現場では傷病者の主訴、症状、既往症等を考慮し適切な病院へ搬送を行いますが、傷病者への気配りを常に行い、相手の立場に立って、安心してもらえるような活動を心掛けています。また、要請場所に1分1秒でも早く、最短ルートで向かう為にも日頃からの管内把握は欠かせません。多いときでは1日に15件以上も出動することがあり、体力的にも大変な部分があります。現場活動以外では救命講習の受付や、実際に普通救命講習を実施するために事業所等へ出向くこともあります。

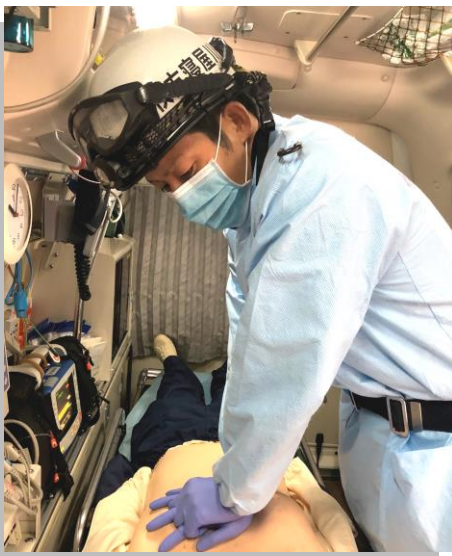
本消防組合では、平成29年4月からドクターカーの運用が始まり、災害現場に医師とともに向かい、いち早く重症者の救命活動を行えるように取り組んでいます。

また、現在は女性の救急隊員も数多く活躍しており、本消防組合では6名が救急隊員として勤務しています。



## 《仕事に対するやりがい》

私が消防の仕事を目指したきっかけは平成16年に起こった新潟県中越地震でした。土砂崩れに巻き込まれた車両から救助された子どもの映像をテレビで見ている「自分も消防で働きたい」と強く思ったのを今でも覚えています。当時は救助隊員に憧れていましたが、消防に関して調べていくうちに、市民と接する機会が多い救急隊員になりたいと思い、本消防組合に入職しました。



実際に、仕事をしてみると私が思っていたものとは違い、軽症の事案が多かったり、夜中に仮眠が全く取れないことも多々ありました。しかし、傷病者やその家族からお礼を言っていたり、心肺停止で搬送した傷病者が社会復帰して手紙を貰った際などは、この上なくやりがいを感じます。どんな事案であっても冷静に活動を行い、傷病者に寄り添えるような心優しい救急隊員を目指しています。